

グローバル・スタディーズとは

現在は、グローバル化に対応できる力を全ての子どもたちに身につけさせることが必要となっています。進行するグローバル化に対応するためには、附属学校園も含め、多くの公立学校で実施できるようなカリキュラムの構想が重要です。京都教育大学では、各附属学校園と大学との連携の下、各校種間において授業の開発を行ってきました。

プロジェクトでは、「暮らしている地域や自国及び世界の国々の歴史や文化について広く深い知識をもつとともに、母語や国際共通語としての英語を活用して、多様な価値観や文化的背景をもった人々と対話し、協働して様々な課題を解決しようとする人」を、目指す人材像としています。

2017年度からは、教科横断的な独自領域である「グローバル・スタディーズ」のカリキュラム開発に方向を定めカリキュラム開発を進めました。グローバル・スタディーズは、各学校段階・学年において、とくに「グローバルな」要素をもつ授業（現行の教科・領域の枠内にある）を独自の視点で「括りだして」構成される領域とします。

グローバル・スタディーズの7つの見方・考え方

- ①人類共通の価値観を踏まえて判断する（公正、平和、人権、寛容、多様性等）
- ②グローバル化によって生じる様々な現象を批判的に捉え、課題を発見する
- ③複雑に絡み合った事象をグローバルな視点から読み解く
- ④様々な課題を特定の文化や国に縛られずに多元的に捉える
- ⑤多様な文化や言語の違いを調整して、他者と協働する
- ⑥持続可能な開発のために意志決定を行う
- ⑦よりよい世界のあり方を構想し、社会参画を通じてその実現のために行動する

グローバル・スタディーズを構成する授業群として、3つの主題別授業・単元群（通称「島」）に分けて授業開発を行います。それは、次のグローバル・ヒストリー、グローバル・イシュー、グローバル・エシックスの3つです。

「グローバル・ヒストリー」：グローバル化という現象を、歴史的時間軸（通時性）のなかで多角的に理解する力を養う授業の主題別授業・単元群です。

「グローバル・イシュー」：グローバル化を、現在時制（共時性）で理解する力を養う授業の主題別授業・単元群です。

「グローバル・エシックス」：グローバル化の深い理解を踏まえて、そこで生起する諸問題を乗り越えるための価値を探求する授業の主題別授業・単元群です。

グローバル・スタディーズでは、2017年度の新学習指導要領に基づくカリキュラムを、上記の見方・考え方から見直し、通常のカリキュラムの中にグローバル・スタディーズの主題を盛り込む方法により、授業開発を目指しています。これによりどのような学校であっても、グローバル人材育成に資する教育が展開できることが目指します。

図1 グローバル・スタディーズの全体イメージ

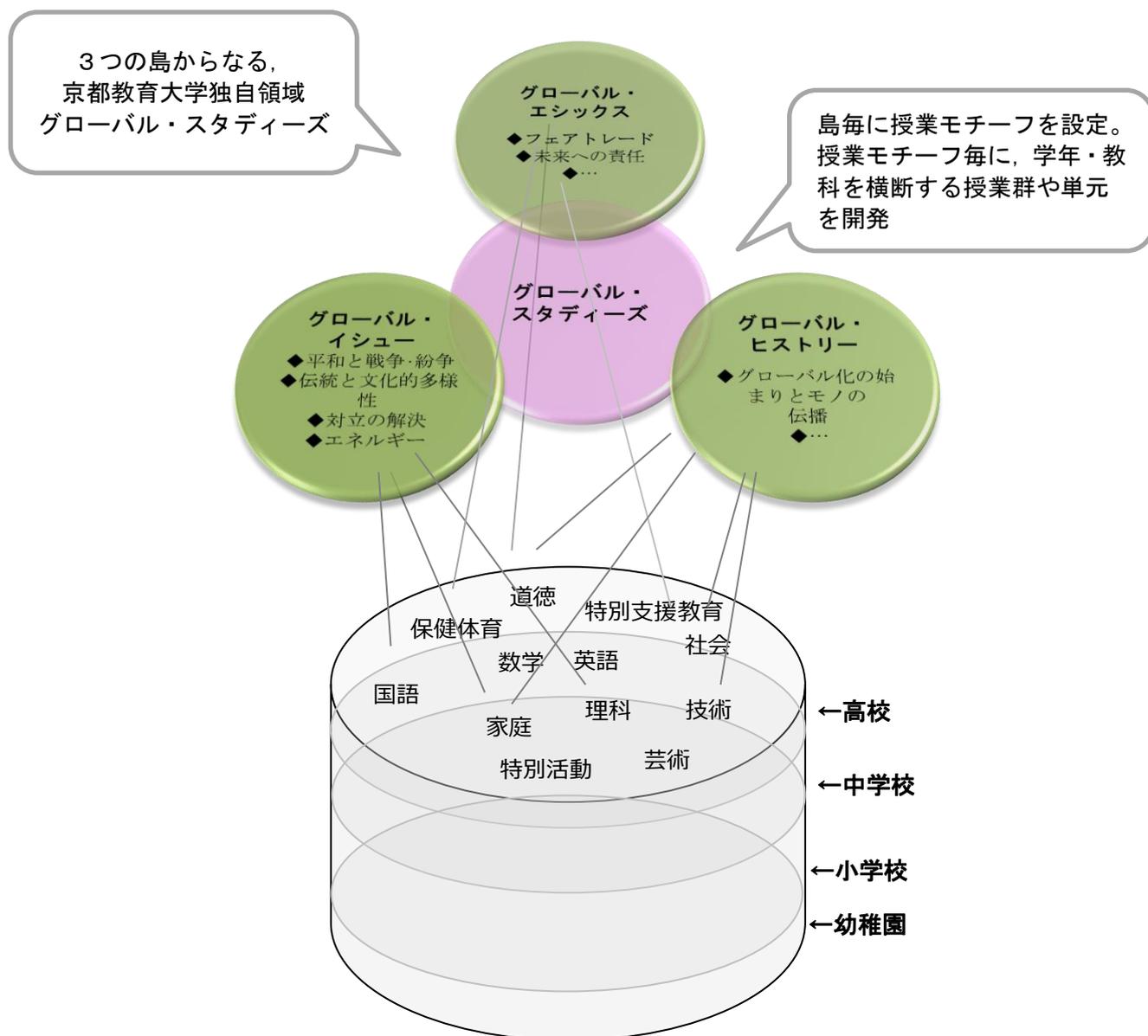


表1 グローバル・スタディーズにおける島の説明

島 (主題別授業・単元群)	島の説明
(1) グローバル・ヒストリー (説明文へリンク)	グローバリゼーションという現象を、歴史的時間軸 (通時性) のなかで多角的に理解する力を養う授業の系列
(2) グローバル・イシュー (説明文へリンク)	グローバリゼーションという現象を、現在時制 (共時性) で理解する力を養う授業の系列
(3) グローバル・エシックス (説明文へリンク)	グローバリゼーションという現象の深い理解を踏まえて、そこで生起する諸問題を乗り越えるための価値を探求する授業の系列

*次期学習指導要領のコンセプトに沿って表現すれば、このように構築された領域の「グローバル・スタディーズ」では、この領域の特質に応じた見方・考え方をを用いて「出会う」「つながる」「ひろがる」と類型化されるような学習を行い、発達段階別目標に示された資質能力を養うことがめざされる。